令和７年度　後期学校評価

那珂川町立馬頭中学校

生徒像	努　力　点	具　　体　　策	評　価 4点満	反　省　点	来年度に向けた改善点	学校関係者評価・第三者評価でいただいた意見等
1 多様性を認め合い、協働する生徒	⑴居がい感のある学級経営	◎配慮生徒への支援	3.5	⑴ 校内教育支援センター（松サポ）への繋ぎ方や利用方法が確立されている。一方で、学習面での支援や評価の方法などで課題が残る。 ⑵ 挨拶の励行や授業開始時の着席などは習慣化できている。一方で、朝の始業に駆け込む生徒が複数人おり、家庭との連携も含めた支援が必要である。 ⑶ 35時間の授業時数を確保し、多様な価値観に触れる場面を設定しながら展開することができた。	⑴ 多様な学びの場の提供及び中学校の出口を意識した利用の仕方について、保護者と共通理解を図って進めていく。 ⑵ 継続して時間の厳守、挨拶の指導を行う。特に、朝の活動に向けては、5分前行動を意識づける。また、生徒主体で良い生活が送れるような雰囲気を醸成する。 ⑶ 生徒の実態、教材などに応じて適切な指導法を選択するなど、ねらいを達成するための指導法を工夫する。	・校内教育支援センター（松サポ）が設置されていることは、大変よい。今後も、不登校生徒等への手厚い配慮をお願いしたい。 ・校内教育支援センター（松サポ）での学習の足跡が残るように工夫してほしい。 ・学校は、同世代との関わりやコミュニケーションの大切さを学べる場であってほしい。 ・あいさつや基本的な生活習慣は、メディアの使い方と関係がある。理想的な使い方を、大人と子供で共通理解を図るよう、学習会などを行うとよいのではないか。
	⑵凡事徹底の定着	○「時間を守る」指導の徹底	3.2			
		○「あいさつ」の励行				
	⑶道徳教育の充実	○年間35時間の確実な実施	3.4			
2 自分で考え、判断し、自立した生徒	⑴授業内容の定着	◎振り返りの工夫と充実 （確かな学力の定着を図る指導法の工夫）	3.7	⑴ 授業の終末に適用問題の時間を位置付けることで、真剣に課題に取り組む姿勢が育ってきた。（那珂川スタイルの徹底）町学力調査結果からも全国平均を上回るなど一定の成果が得られた。 ⑵ 水曜朝の書く活動では、「テーマについて作文を書く」→「生徒同士の回し読み」→「自分の文章を再考する」の活動を繰り返し行った。他者の文章を読むことで、思考を深め、書く力を高めることにつながった。 ⑶ 校内支援委員会を開き、支援の方向性や合理的配慮について共通認識をもって指導にあたる体制を整えた。	⑴ 個別支援をさらに深化させ、すべての生徒に支援が行き届くようにする。また、支援を通して、最終的には自分で学習を調整できる力を育成する。 ⑵ 水曜朝の書く活動は継続する。今後は、生徒会を巻き込み、学校全体で同じ方向性で取り組んでいける活動にする。 ⑶ 引き続き、早期に支援できる体制を確立させる。通級のスムーズな導入を進めていく。	・朝の時間に「書く活動」を取り入れ、書く力を高めるよう継続していることは、 よい取り組みである。 ・「書く力」の評価が低い。デジタルでの学習を進めながら使い方を工夫し、学力や書く力を付けるよう進めて欲しい。 ・生徒の町立図書館の利用が増えている。公共施設とさらに連携し、学べる場をつくることが大切だと考える。 ・新聞は、自分が興味のない記事にも触れることにつながったり、「読む」「書く」「話す」ことにもつながったりするので、新聞を活用するとよいのではないか。
	⑵「表現力」の向上	◎「話す」「書く」活動の充実	3.2			
	⑶特別支援教育の充実	○適切な交流及び交流学習の推進	3.4			
3 夢や志をもち、挑戦し続ける生徒	⑴ 体力向上の推進	◎保健体育での運動量の確保	3.0	⑴ 単元ごとに、感覚づくりのためのトレーニングを行い、運動の楽しさを味わいながら運動量を確保した。 ⑵ 健康観察を利用し生活習慣の把握を継続的に行うことができた。日常的に生徒への指導等を行った。 ⑶ 避難訓練、引き渡し訓練等滞りなく実施できた。消防署と連携した職員研修、体育の授業で救命講習、着衣泳を実施することができた。生徒視点の安全点検を実施した。	⑴ 運動量の確保を目指し、さらに生徒が率先して取り組むようなトレーニングを実施する。 ⑵ 家庭と連携した指導機会の充実を図る。また、健康観察の内容の見直しなどを行い、日常的な指導を継続して行い、生徒への意識付けをする。 ⑶ 継続した指指導機会の充実を図る。また、様々な場面を想定し、指導内容の工夫を行う。	・体育の授業で持久走記録会を開いているのは、目標を持って取り組めることの１つになるのでよい。 ・持久走の前に競歩記録会を入れるなど、運動が苦手な生徒でも取り組みやすい方法や生徒が関心のある種目を取り入れることもできるとよいのではないか。 ・スクールバスでの登校、休日も室内で過ごすことが多いというような実態から、朝の時間に体操（ラジオ体操、ストレッチなど）を取り入れるなど、日々の学校生活の中で体を動かす時間を意図的に作ることも考えられる。
	⑵健康教育の充実	○「規則正しい生活リズムの定着」を目指した支援	3.2			
	⑶安全教育の充実	○危機回避能力の育成	3.7			
4 徳・知・体を支えるための方策	⑴過ごしやすい環境づくり	◎整理整頓と掲示板の活用 ○清掃活動の充実	3.7	⑴ 日々、環境整備を進めてきた。また、生徒の活動の様子を、行事や季節に応じた内容で掲示したり、学習したことを写真や資料を入れて分かりやすく掲示したりすることができた。 ⑵ 現職教育では伝達研修や講師を活用しての研修を行った。学校や地域の実態や今日的な課題を的確に把握し、スキルアップを図るよう研修を計画する必要がある。 ⑶ 業務改善モデル校として、さらに効率的にできることを検討した。カエル会議を重ねることで、業務改善の意識が高まった。 ⑶ 地域コーディネーターと連携を図り、すべての学年でボランティアの方にお手伝いをいただくことができた。ホームページや各種便りで、生徒の活躍する様子や日常の活動を伝えることができた。	⑴ 事故防止、衛生管理など、校内の環境を定期的に見直すことで、安心・安全で過ごしやすい環境作りを進める。 ⑵ 授業力、ICT活用、協働的な学びなどの複数のスキルを学校全体で高め、研修したことを学校全体で取り組んでいく。 ⑵ 業務改善案を次年度以降に生かせるよう、教育課程を工夫する。カエル会議を継続し、業務の見直しを図っていく。 ⑶ 地域コーディネーターと情報共有し、地域資源の活用やボランティアの活用など、横のつながりを強化する。	・きめ細かな学校便りを発行したり、ホームページの更新を定期的に行ったりしているので、学校や生徒の様子が分かり、学校を身近に感じることができる。 ・業務改善を検討して進めることで、先生方の負担を減らし、生徒に関わる時間をさらに増やしていってほしい。
	⑵新たな教師の学びづくり	◎現職教育の充実 ○業務改善モデル校の推進	3.7			
	⑶地域とともにある学校づくり	◎地域教材、人材の活用 ○学校だより、HPでの啓発	3.8			